

自分で考え行動する習慣を養う 「環境づくり」の大切さ

相手の感情を読み取り、自分自身で考え、
行動することができると言われる5歳児。
この時期の子育てで大切にしたいのは、
将来に役立つ判断力やコミュニケーション能力を養い、
自分自身で考える習慣を身につけるための「環境づくり」です。

Ambitious
清水絵津子さん

ビジネスマナー講師、コンサルタント。企業、団体、ゴルフ場等での接遇（ビジネス）マナー・営業マン研修や講演活動を行う「Ambitious」代表。形だけでなく、徹底して現場で即実践出来る、わかりやすい教え方が好評。



一般的に子どもは5歳を迎える頃になると、相手の喜怒哀楽を読み取り、そこに自分の感情を重ねる（感情移入する）ことができるようになると言われます。また、約束やルールを守って友達と楽しく遊ぶ能力を、少しずつ身につけていくのも5歳児の頃の特徴だとされています。この時期の子育てでは、自分で考えて行動するようになる『環境づくり』を大切にしたいものです。

例えば、ゲームをする時には「○○くんと1回ずつ交代しながら遊ぼうね」と、ルールを決めてあげましょう。すると子どもは、そのルールを守りながら遊びを楽しむようになります。また、屋内外で活発に遊んでいると、見ている大人が思わず「危ない!」と感じてしまうこともありますが、そんな時もすぐに声をかけず、じっと見守ってあげることが大

切です。自分自身で考え行動するように促すような環境を作ることで、子どもは自然にコミュニケーション能力や判断力を磨いていくものです。ママのお手伝いをお願いする時も、ちょっとしたルールを付け加えてあげれば、きっと子どものやる気もUPするはずです。

他人を羨ましがったり、ご褒美を欲しがするのも5歳児の頃によく見受けられる傾向ですが、こういう場面でも頭ごなしに「ダメ」とは言わず、お子さんの気持ちを理解してあげたうえで、その理由と根拠を分かりやすく説明してあげましょう。気をつけたいのは、決して感

情的にではなく、視線を合わせ丁寧に伝えてあげること。そうすることで、きっとお子さんも周囲への配慮を学び、お友だちや家族と円滑なコミュニケーションがとれるようになっていくはずです。

